



SORA

web magazine 2013.jun. vol.18

Ogasawara

自然あふれる小笠原へ

2011年に世界自然遺産に登録された小笠原。
豊かな動植物に、豪快な海、そしてゆったりとした時間。
独特の空気をとことん楽しんでみたい場所だ。

MAP
CLICK!

写真と文: 古見きゆう

撮影協力: クラブノア母島、パパスダイビングスタジオ



S驚き Surprise

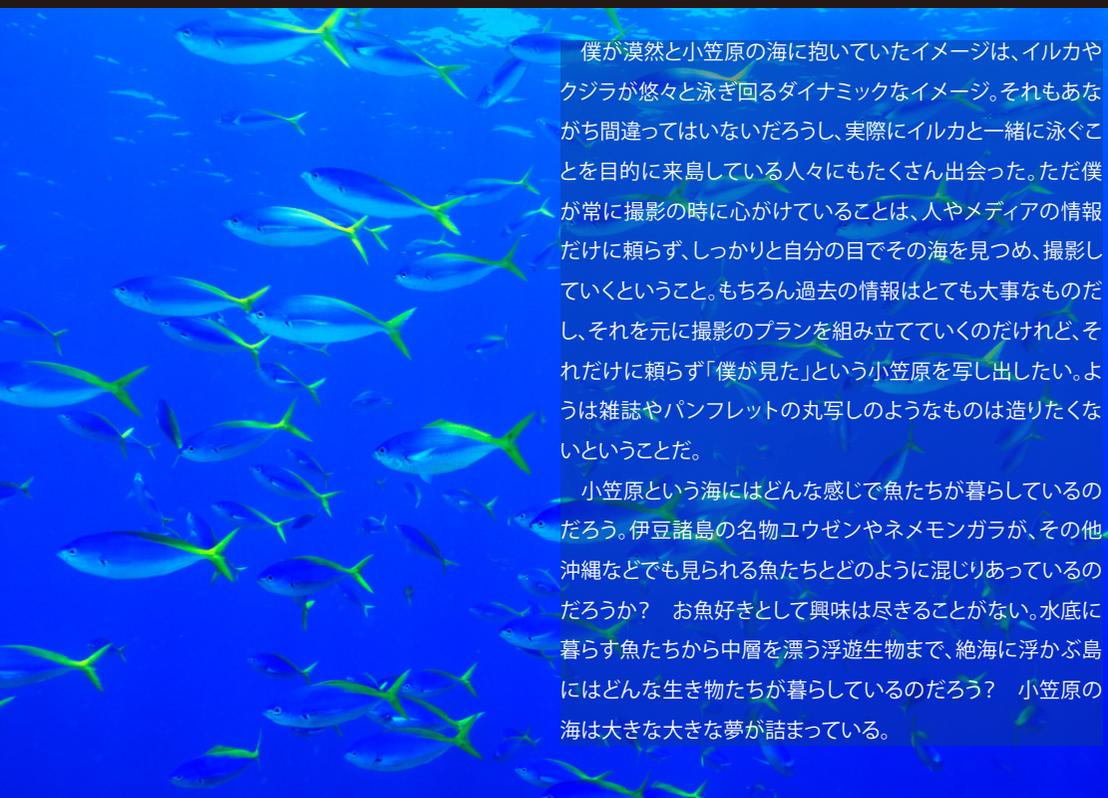
Ogasawara
小笠原



僕にとって諸外国の海よりも遠かった小笠原。距離的にいうのではなく、たんに機会を逃し続けてきただけなのだけど、2011年6月、世界自然遺産に登録される直前に、念願かなってようやく訪れることができた。小笠原を訪れるにあたり色々な人たちから「25時間の船旅はキツイよ～」とか「海が荒れたら揺れるよ～」などなど、往復に使うおがさわら丸のネガティブなことを、ちよくちよく耳にしていた。そん

なふうに不安を煽られながら乗船したおがさわら丸だが、雑魚寝の二等船室とはいえども横になって寝ることができるし、目が覚めたら外に出たり船内をプラブラすることができるので、全く苦にはならなかった。飛行機のエコノミークラスより、よっぽど快適じゃん。食堂のカツカレーも旨かったし。というわけで意外なほどのアクセスの良さに驚きつつ僕の、小笠原の旅は始まったのであった。





僕が漠然と小笠原の海に抱いていたイメージは、イルカやクジラが悠々と泳ぎ回るダイナミックなイメージ。それもあながち間違っていないだろうし、実際にイルカと一緒に泳ぐことを目的に来島している人々にもたくさん出会った。ただ僕が常に撮影の時に心がけていることは、人やメディアの情報だけに頼らず、しっかりと自分の目でその海を見つめ、撮影していくということ。もちろん過去の情報はとても大事なものだし、それを元に撮影のプランを組み立てていくのだけれど、それだけに頼らず「僕が見た」という小笠原を写し出したい。ようは雑誌やパンフレットの丸写しのようなものは造りたくないということだ。

小笠原という海にはどんな感じで魚たちが暮らしているのだろう。伊豆諸島の名物コウゼンやネメモンガラが、その他沖縄などでも見られる魚たちとどのように混じりあっているのだろうか？ お魚好きとして興味は尽きることがない。水底に暮らす魚たちから中層を漂う浮遊生物まで、絶海に浮かぶ島にはどんな生き物たちが暮らしているのだろうか？ 小笠原の海は大きな大きな夢が詰まっている。







Ocean
Ogasawara
小笠原



海中での出来事ではないのだが、父島のウェザーステーションから見える夕焼けの光景に、心を奪われた。もちろんこの海に撮影に行っても、時間が許す限り夕陽や夕焼けを求めて撮影には行っているのだけど、その土地であまりにも有名な夕陽スポットなどは個人的にあまり好きではなかった。「夕陽がキレイで有名なんですよ～」とパパスの星野さんに勧められ、当初は若干の抵抗を感じながら行って見てたウェザーステーション。水平線に吸い込まれていく太陽を、たくさんの人が見ている。空の青が徐々に赤味を帯びていく。

キレイだ。理屈じゃなくキレイだ…。天邪鬼なことを言っていないで来てほんとによかった。たいがい人は夕陽が水平線に沈んでしまったら足早に帰ってしまうのだけど、僕が好きなのは太陽が沈んでからの数分間。僕らからは見えなくなった太陽が、消える前の電球のように空を儚く照らす一瞬が好きだ。日中の終わりと新しい夜が入れ替わる瞬間。ウェザーステーションで見た景色は、どこか僕に宇宙を感じさせてくれるものだった。

A 行動 Action



小笠原滞在中はとにかく歩きまわった。滞在期間の約2週間は、雨どころか曇る瞬間もないほどの快晴続きで、毎日に干上がりそうになりながらも歩きまわった。まあ写真を撮るのには絶好のコンディションではあったけど…。

ウミガメが産卵のために上陸していると聞けば夜中でもごそそと海岸に

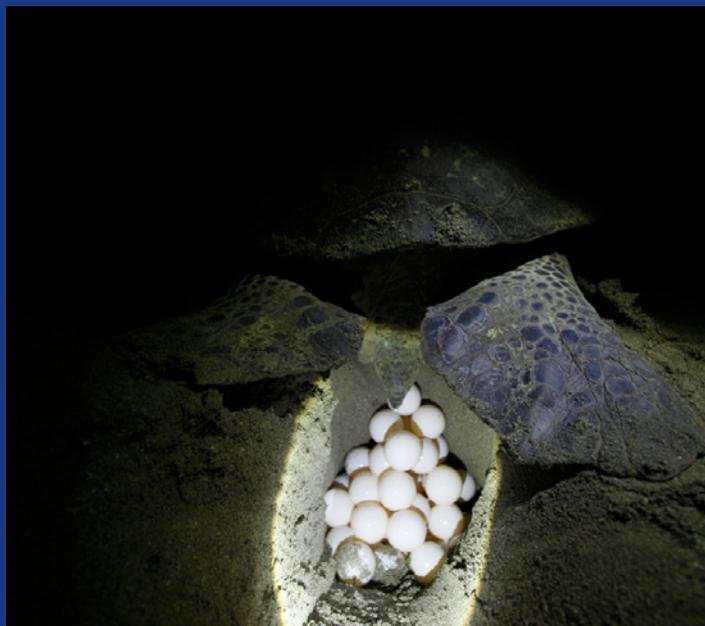


向かい、特別天然記念物のハジマメグロがいると聞けば森の中で息を潜める母島の日々。眺めの良さそうな高台を見つけてはテクテク歩く父島の日々。小笠原の美しい景色や固有動植物を観察しながら歩き回るのは、僕にとってもすごくいい時間となっていた。入島人数が制限されている南島も



いい。ハートロックもダイナミックだ。

小笠原はダイビングだけじゃもったいない。アフターダイブも自分の足で色々歩きまわり島の空気を感じたり、ネイチャーガイドの引率のもと島の自然に触れてみるのもいいだろう。



Information

●気候：冬場でも最高気温は20度を超える事が多いが、朝晩は10度近くまで冷え込む事があるので注意。夏場は30度を越える事が多く、最低気温も22～23度 ●水温：5～11月は24～28℃くらいになるが、12～4月は20～22℃くらいなので、5mmのウェットスーツにフードベスト、またはドライスーツがあると便利 ●通信：携帯電話は市街地では繋がる ●水：水道水を飲むことは問題ないが、街中を離れると飲み水を補給出来る場所がないので注意